

科目名	文化人類学特論 I			担 当 教 員 : 李 鎮榮
科目名(英語)	Cultural Anthropology I			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前	研2 1 3	火・金 15：00—17：00

1. 講義内容

この講義は文化人類学的社会分析ができることを狙いとする。大きく人間の営みを人・自然・超自然に分け、各分野における文化人類学の考え方を紹介する。「文化」とは人を取り巻く最も重要な環境であり、人間の行動を決定付けるのかを理解してもらいたい。講義に際して講義形式は最小限に留めたい。受講生による発表と議論を中心に考察していく。

2. 履修要件

文化人類学や関連の授業を学部や大学院で最低4単位以上受講済であることが望ましい。

3. テキスト

特に設けないが指定する必読書を読んでレポートを提出してもらう。

4. 参考書

Nanda, Cultural Anthropology, wadsworth (非専攻者のための概論書)。研究室所蔵
 Roger. Keesing, Introduction of Cultural Anthropology (専攻者のための概論書)。図書館所蔵
 その他, 言語人類学と構造人類学関係の図書については最初の時間に目録を提供する。

5. 講義予定

- 第 1 回 (4/12) 自己紹介と方針, 予備知識のチェック, 発表の分担者を決める。
- 第 2 回 (4/19) 文化人類学と人間の多様性
- 第 3 回 (4/26) 文化人類学の理論(社会進化論・伝播論)
- 第 4 回 (5/10) 文化人類学の理論 (機能主義・構造機能主義)
- 第 5 回 (5/17) 適応と文化 (狩猟採集・遊牧)
- 第 6 回 (5/24) 適応と文化 (農耕と焼畑)
- 第 7 回 (5/31) 人間の行為と文化の脈略
- 第 8 回 (6/7) Sex & Gender
- 第 9 回 (6/14) 言語
- 第 10 回 (6/21) 言語と記号
- 第 11 回 (6/28) 言語人類学の広がり
- 第 12 回 (7/5) 文化を学ぶことと Culture Code
- 第 13 回 (7/12) Gender-Role, Socialization
- 第 14 回 (7/19) 社会化とその後の生活
- 第 15 回 (7/26) 総括

6. 評価方法

発表内容と授業への貢献度	50点
レポート(発表など)	50点
合 計	100点

7. その他

講義の内容は受講生の学習準備度・理解力に合わせて調整する。

科目名	文化人類学特論Ⅱ			担 当 教 員 : 李 鎮榮
科目名(英語)	Cultural Anthropology II.			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後	研213	火・金15:00—17:00

1. 講義内容

この講義は文化人類学的社会分析を狙いとする。前期の文化人類学特論Ⅰに引き続き、主に人間と超自然、人間と法（社会統制）を中心テーマに考えていく。講義に際して講義形式は最小限に留めたい。受講生による発表と議論を中心に考察していく。

2. 履修要件

学部や大学院で文化人類学関連の授業を最低4単位以上受講済みであることが望ましい。
前期の文化人類学特論Ⅰの受講済みであればより望ましい。

3. テキスト

特に設けないが指定する必読書を読んでレポートを提出してもらおう。

4. 参考書

Nanda, Cultural Anthropology, Wadsworth（非専攻者のための概論書）。研究室所蔵
Roger.Keesing, Introduction of Cultural Anthropology（専攻者のための概論書）。図書館所蔵
その他、宗教人類学と法人類学関係の図書については最初の時間に目録を提供する。

5. 講義予定

- 第 1 回（ / ） 自己紹介と方針，予備知識のチェック，発表の分担者を決める。
- 第 2 回（ / ） 生業形態と環境
- 第 3 回（ / ） 生業携帯と環境
- 第 4 回（ / ） 人間の経済：人類学的経済研究
- 第 5 回（ / ） 人間の経済：交換のシステム
- 第 6 回（ / ） 市場交換と贈与
- 第 7 回（ / ） 市場交換と贈与
- 第 8 回（ / ） 宗教・非論理のロジック 1
- 第 9 回（ / ） 宗教・非論理のロジック 2
- 第 10 回（ / ） 宗教・非論理のロジック 3
- 第 11 回（ / ） 法と統制 1
- 第 12 回（ / ） 法と統制 2
- 第 13 回（ / ） 法と統制 3
- 第 14 回（ / ） 法と統制 4
- 第 15 回（ / ） 総括

6. 評価方法

発表内容と授業への貢献度	50点
レポート（発表など）	50点
合 計	100点

7. その他

講義の内容は受講生の学習準備度・理解力に合わせて調整する。

科 目 名	経済政策特論			担 当 教 員 : 宮平 栄治																																													
科目名(英語)	Economic Policy																																																
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー																																													
2	1, 2	前	315	火曜日・木曜日: 14 時 50 分～16 時 20 分																																													
1. 講義内容 経済政策は、他の経済学分野と違い、極めて現実的課題を扱う。例えば、自然科学においては実験等を通じてデータを収集し、再生可能な情報を、他の社会科学においてはアンケート等を通じてデータを収集し、再生の可能性が高い情報を得、理論構築と展開を行うが、経済政策では実験を行い、失敗をする事はできない。この点を踏まえ、この講義では、経済政策の決定に関する諸課題を扱い、日本および世界経済の診断を行なう。 2. 履修要件 『日本経済新聞』等の経済専門誌を読むこと。 3. テキスト 適宜、資料を配布する予定である。 4. 参考文献 (1) 後藤昭八郎著『経済政策原理の研究』(世界書院 2000 年 5 月) (2) 鳥居泰彦著『経済発展理論』(東洋経済新報社 1979 年 1 月) (3) 小宮隆太郎・奥野正寛・鈴木興太郎編『日本の産業政策』(東大出版会 1984 年 12 月) (4) 伊藤元重・清野一治・奥野正寛・鈴木興太郎著『産業政策の経済分析』(東大出版会 1988 年 5 月) 5. 講義予定 <table><tr><td>第 1 回</td><td>(4/12)</td><td>経済政策と他の社会科学との相違点</td></tr><tr><td>第 2 回</td><td>(4/19)</td><td>経済政策の発動要因および政策主体</td></tr><tr><td>第 3 回</td><td>(4/26)</td><td>経済政策過程と種類</td></tr><tr><td>第 4 回</td><td>(5/10)</td><td>政策手段と政策変数</td></tr><tr><td>第 5 回</td><td>(5/17)</td><td>法律と行政指導</td></tr><tr><td>第 6 回</td><td>(5/24)</td><td>財政政策</td></tr><tr><td>第 7 回</td><td>(5/31)</td><td>金融政策</td></tr><tr><td>第 8 回</td><td>(6/07)</td><td>マクロ経済と経済構造</td></tr><tr><td>第 9 回</td><td>(6/14)</td><td>マクロ経済政策</td></tr><tr><td>第 10 回</td><td>(6/21)</td><td>成長政策①ーハロッド・ドーマー理論</td></tr><tr><td>第 11 回</td><td>(6/28)</td><td>成長政策②ー新古典派成長理論</td></tr><tr><td>第 12 回</td><td>(7/05)</td><td>成長政策③ーデュアリズムの経済発展理論(マルサス、Hinggins、Lewis など)</td></tr><tr><td>第 13 回</td><td>(7/12)</td><td>ミクロ経済と経済</td></tr><tr><td>第 14 回</td><td>(7/26)</td><td>ミクロ経済政策</td></tr><tr><td>第 15 回</td><td>(8/02)</td><td>日本の産業政策</td></tr></table> 6. 評価方法 ① レポートを 5 回作成する。 ② 1 回のレポートの点数を 20 点とし、合計点数で評価する。 7. その他 ①大学院における修士課程の講義は修士論文作成に向けて講義を展開するので、目的意識を有した院生の受講を希望する。 ②口頭発表の際は、レジュメを用意する。 ③発表に対しては建設的な意見を述べ、その意見に対しては謙虚に応える。					第 1 回	(4/12)	経済政策と他の社会科学との相違点	第 2 回	(4/19)	経済政策の発動要因および政策主体	第 3 回	(4/26)	経済政策過程と種類	第 4 回	(5/10)	政策手段と政策変数	第 5 回	(5/17)	法律と行政指導	第 6 回	(5/24)	財政政策	第 7 回	(5/31)	金融政策	第 8 回	(6/07)	マクロ経済と経済構造	第 9 回	(6/14)	マクロ経済政策	第 10 回	(6/21)	成長政策①ーハロッド・ドーマー理論	第 11 回	(6/28)	成長政策②ー新古典派成長理論	第 12 回	(7/05)	成長政策③ーデュアリズムの経済発展理論(マルサス、Hinggins、Lewis など)	第 13 回	(7/12)	ミクロ経済と経済	第 14 回	(7/26)	ミクロ経済政策	第 15 回	(8/02)	日本の産業政策
第 1 回	(4/12)	経済政策と他の社会科学との相違点																																															
第 2 回	(4/19)	経済政策の発動要因および政策主体																																															
第 3 回	(4/26)	経済政策過程と種類																																															
第 4 回	(5/10)	政策手段と政策変数																																															
第 5 回	(5/17)	法律と行政指導																																															
第 6 回	(5/24)	財政政策																																															
第 7 回	(5/31)	金融政策																																															
第 8 回	(6/07)	マクロ経済と経済構造																																															
第 9 回	(6/14)	マクロ経済政策																																															
第 10 回	(6/21)	成長政策①ーハロッド・ドーマー理論																																															
第 11 回	(6/28)	成長政策②ー新古典派成長理論																																															
第 12 回	(7/05)	成長政策③ーデュアリズムの経済発展理論(マルサス、Hinggins、Lewis など)																																															
第 13 回	(7/12)	ミクロ経済と経済																																															
第 14 回	(7/26)	ミクロ経済政策																																															
第 15 回	(8/02)	日本の産業政策																																															

科目名	社会心理学特論 I			担 当 教 員 : 木村 堅一
科目名(英語)	Social Psychology I .			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1	前	310	月曜日： 13：10 ～ 14：40 火曜日： 13：10 ～ 14：40

1. 講義内容

大学院で扱う研究対象は「言語」、「経営」、「情報」、「環境」、「政策」「健康」など幅があるが、実は共通点も存在する。どの領域の研究者であっても、必ずその研究対象に関わる現象を測定し、測定されたデータを加工、分類、比較、解析して、学術貢献あるいは社会貢献するための「新たな知・技術」を生産することを目的としている。本講座では、大学院での修士論文の執筆に役立つ社会心理学の「研究法」に焦点を当てる。また、社会心理学の研究法を学ぶことによって、受講生自らの研究デザインをお互いにブラッシュアップしあうことを目的とする。

2. 履修要件

特になし

3. テキスト

W. J. レイ (著) 岡田 圭二 (訳) 2003 エンサイクロペディア心理学研究方法論 北大路書房 4800 円

4. 参考文献

高根正昭 1979 創造の方法学 (講談社現代新書 553) 講談社
南風原朝和・市川伸一・下山晴彦 (編) 2001 心理学研究法入門 東京大学出版会

5. 講義予定

第 1 回	(f)	コース紹介
第 2 回	(f)	科学とは何か (第 1 章 その 1) 認識の方法としての科学
第 3 回	(f)	科学とは何か (第 1 章 その 2) 科学的な研究方法、行動と経験の研究とは
第 4 回	(f)	科学についての方法 (第 2 章 その 1) 観察、相関、実験
第 5 回	(f)	科学についての方法 □ 第 2 章 その 2) 論理と推論、評価、コミュニケーション
第 6 回	(f)	仮説を発展させる (第 3 章 その 1) 論理的に仮説をつくる
第 7 回	(f)	仮説を発展させる (第 3 章 その 2) アイディアを得る
第 8 回	(f)	数的表現による行動の記述 (第 4 章 その 1) 測定と統計
第 9 回	(f)	数的表現による行動の記述 (第 4 章 その 2) 記述統計
第 10 回	(f)	推測統計 (第 5 章 その 1) 確率と分布
第 11 回	(f)	推測統計 (第 5 章 その 2) 仮説検証、t 検定
第 12 回	(f)	仮説を検討する (第 6 章 その 1) 変動の種類
第 13 回	(f)	仮説を検討する (第 6 章 その 2) 統計的仮説検証と内的妥当性
第 14 回	(f)	統制 (第 7 章 その 1) 無作為化、実験計画での統制
第 15 回	(f)	統制 (第 7 章 その 2) 実験の論理での統制、1 章から 7 章までのまとめ

6. 評価方法

- ・講義への取り組み (50 点): 講義中の発表、質疑応答、積極的な参加
- ・課題レポートの提出 (50 点): 1 つの章を要約し、授業の中での議論を踏まえ、研究課題を設定、報告。
- ・合計 (100 点)

7. その他

特になし。

科目名	社会心理学特論Ⅱ			担 当 教 員 : 木村 堅一
科目名(英語)	Social PsychologyⅡ.			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1	後	310	月曜日: 13:10 ~ 14:40 火曜日: 13:10 ~ 14:40

1. 講義内容

大学院で扱う研究対象は「言語」、「経営」、「情報」、「環境」、「政策」「健康」など幅があるが、実は共通点も存在する。どの領域の研究者であっても、必ずその研究対象に関わる現象を測定し、測定されたデータを加工、分類、比較、解析して、学術貢献あるいは社会貢献するための「新たな知・技術」を生産することを目的としている。本講座では、「社会心理学特論Ⅰ」に引き続き、大学院での修士論文の執筆に役立つ社会心理学の「研究法」に焦点を当てる。また、受講生自らの研究デザインをお互いにブラッシュアップしあうことを目的とする。

2. 履修要件

原則として社会心理学特論Ⅰを履修した者であること。

3. テキスト

W. J. レイ (著) 岡田圭二 (訳) 2003 エンサイクロペディア心理学研究方法論 北大路書房 4800 円

4. 参考書

高根正昭 1979 創造の方法学 (講談社現代新書 553) 講談社

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦 (編) 2001 心理学研究法入門 東京大学出版会

5. 講義予定

第 1 回	(f)	コース紹介
第 2 回	(f)	実験の論理を応用する (第 8 章 その 1) 被験者間実験計画
第 3 回	(f)	実験の論理を応用する (第 8 章 その 2) 要因計画
第 4 回	(f)	実験の論理を適用していく (第 9 章 その 1) 被験者内実験計画
第 5 回	(f)	実験の論理を適用していく (第 9 章 その 2) 混合実験計画
第 6 回	(f)	実験の生態学 (第 10 章 その 1) 生態学、実験者要因
第 7 回	(f)	実験の生態学 (第 10 章 その 2) 被験者要因、バイアス
第 8 回	(f)	質問紙, 調査研究, 標本抽出 (第 13 章 その 1) 質問構成と形式
第 9 回	(f)	質問紙, 調査研究, 標本抽出 (第 13 章 その 2) 標本の抽出と大きさ
第 10 回	(f)	倫理 (第 14 章 その 1) 倫理的配慮、実験上の配慮
第 11 回	(f)	倫理 (第 14 章 その 2) 各国のガイドライン
第 12 回	(f)	結果の共有 (第 15 章 その 1) 論文の準備
第 13 回	(f)	結果の共有 (第 15 章 その 2) 論文を出版する
第 14 回	(f)	方法を超えて (第 16 章 その 1) 研究の次元、科学の限界
第 15 回	(f)	方法を超えて (第 16 章 その 2) 科学の価値

6. 評価方法

- ・講義への取り組み (50 点): 講義中の発表, 質疑応答、積極的な参加
- ・課題レポートの提出 (50 点): 1 つの章を要約し、授業の中での議論を踏まえ、研究課題を設定、報告。
- ・合計 (100 点)

7. その他

特になし。

科目名	環境生態学特論 I			担 当 教 員 : 田代 豊
科目名(英語)	Advanced Environmental Science and Ecology I			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前	207	前期時間割確定後研究室に掲示

1. 講義内容

人間と自然との関わりの機会が重視されつつある現代社会において、自然環境の保全のために景観の価値の適切な評価手法の確立が求められている。本講義では、環境と人間との関わりの一側面として、景観評価の現状について、演習的要素を取り入れながら講義する。

2. 履修要件

自然科学の基本的な素養があり、かつ、過去に環境科学・生態学に関する講義を履修したことがあること。

3. テキスト

とくに指定せず、授業中に資料等を配布する。

4. 参考書

『景観環境論』藤沢和也著、地球社発行（4200 円＋税）、『景観の構造』樋口忠彦著、技報堂出版発行（3000 円＋税）、『地生態学入門』横山秀司著、古今書院発行（3200 円＋税）

5. 講義予定

- 第 1 回 科目の概要の説明
- 第 2 回 景観生態学と感性工学について
- 第 3 回 景観の視覚的構造について
- 第 4 回 景観感性の意味
- 第 5 回 景観感性の構造
- 第 6 回 景観感性の計測について①
- 第 7 回 景観感性の計測について②
- 第 8 回 中間まとめ
- 第 9 回 景観の空間的構造について
- 第 10 回 景観の空間構成要素
- 第 11 回 空間構成要素の計測について
- 第 12 回 フラクタル解析について①
- 第 13 回 フラクタル解析について②
- 第 14 回 景観シーケンスの解析について
- 第 15 回 総合討論

6. 評価方法

授業への取り組み	50 点
レポート	50 点
合 計	100 点

7. その他

なし

科目名	環境生態学特論Ⅱ			担 当 教 員 : 田代 豊
科目名(英語)	Advanced Environmental Science and Ecology Ⅱ			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後	207	後期時間割確定後研究室に掲示

1. 講義内容

沿岸海域は人間社会に様々な恩恵を与える反面、人間活動の影響を直接受けることが多く、その環境の保全が重要である。本講義では、沿岸海域と河口の環境と生態系の構造について解説し、人間活動によってそれらにもたらされている諸問題について論ずる。

2. 履修要件

過去に環境科学・生態学に関する講義を履修したことがあること。また、化学・物理学・地学・生物等自然科学の基本的な素養を必須とする。

3. テキスト

とくに指定せず、授業中に資料等を配布する。

4. 参考書

『河口・沿岸域の生態学とエコテクノロジー』栗原康編著、東海大学出版会発行（税込み 6300 円）

5. 講義予定

- 第 1 回 科目の概要の説明
- 第 2 回 生態学と生態系の意義①
- 第 3 回 生態学と生態系の意義②
- 第 4 回 河口および沿岸域の環境①
- 第 5 回 河口および沿岸域の環境②
- 第 6 回 河口および沿岸域における生態系の機能①
- 第 7 回 河口および沿岸域における生態系の機能②
- 第 8 回 沿岸海域における地形改変①
- 第 9 回 沿岸海域における地形改変②
- 第 10 回 水質汚染と水産資源①
- 第 11 回 水質汚染と水産資源②
- 第 12 回 微量有害物質の起源と挙動①
- 第 13 回 微量有害物質の起源と挙動②
- 第 14 回 海浜のアメニティー
- 第 15 回 総合討論

6. 評価方法

授業への取り組み	50点
レポート	50点
合 計	100点

7. その他

なし

科目名	人間健康科学特論			担 当 教 員 ： 柳 敏晴
科目名(英語)	Human Health Sciences			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	人研 208	

1. 講義内容

人間と健康の概念は、幅広く奥深い。現在健康科学に求められているものは、少子・高齢化する国民の健康維持と身体活動を通して、国民の豊かな生活に寄与することと考えられる。そのため、健康とその意義から、心身の発育・発達と健康、職業と健康、環境と健康、これからの社会と健康について、幅広く考えていく。さらに、これからの時代からの社会的要請と、体育・スポーツ・健康科学の高度化・多様化に応えるために、広い視野と高度な知識を得るための科目である。

2. 履修要件

授業の進め方は、講義と受講生による発表（小プレゼンテーションと最終プレゼンテーション）により、受講生の主体的取り組みと双方向型で進める。

3. テキスト

「健康と運動の科学」九州大学健康科学センター編、大修館書店

4. 参考書

「オリンピックのすべて」ジム・パリー他著、榎本直文訳・著、大修館書店

「健康教育序説－生活と健康－」野田雄二編著、玉川大学出版部

「健康・スポーツの経営学」青木高、建帛社

5. 講義予定

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 健康とその意義
- 第 3 回 健康観の変遷：古代の健康観
- 第 4 回 健康観の変遷：中世の健康観
- 第 5 回 健康観の変遷：近世の健康観
- 第 6 回 健康観の変遷：現代の健康観
- 第 7 回 健康観の変遷：沖縄の健康観
- 第 8 回 前半のまとめと発表：自分史の作成と健康観
- 第 9 回 心身の発育・発達と健康
- 第10回 職業と健康
- 第11回 環境と健康
- 第12回 体育と健康
- 第13回 スポーツと健康
- 第14回 集団の健康
- 第15回 まとめと発表

6. 評価方法

授業での活動状況	30点
前半のまとめと発表	30点
まとめのレポートと発表	30点
合 計	100点

7. その他

人間と健康に関する文献を、幅広く読むこと。